

VISION
2040

新・群馬県総合計画

超少子高齢化

生態系が乱れる

独り暮らしで不安

デジタル化の波

人間関係の希薄化

後継者不足

再生可能エネルギー

AIが人を超える？ 社会的孤立

都市部でさえも空き家が増加

情報の氾濫

若者の流出

脱炭素が実現できるか？

行政サービスの低下

AIに仕事を取られてしまう？

20年先に今の

人

気候変動

老後の生きがいがあるか

「100年に一度の災害」が、毎年起こる？

〔 将来予想される課題解決のために 〕

2040年に向けて群馬県の指針となる

「新・群馬県総合計画」

を策定しました。

インフラの老朽化

情報弱者は、弱者のままか？

地球温暖化

に乘れない 群馬県？

ヘシフトできるのか？ 労働力不足

Society5.0 ってどんな社会？

作物の収穫量が変わる

中心市街地の衰退

人口減少

仕事があるか分からない？

新たなウイルス等によるパンデミック

未婚化

出生率低下

女性の社会進出は進んでいるのか？

電車、バスが無くなる？

SNS上の人権侵害

情報格差

世界的な諸課題が身近に迫る

買い物難民

市民活動の停滞

目次

将来予想される課題解決のために	P1
新・群馬県総合計画の概要	P3
<ビジョン編>	
変化の見通し・目指す姿「快疎」	P5
目指す姿「始動人」と「官民共創コミュニティ」	P7
2040年に向けた政策	P9
<基本計画編>	
I 行政と教育のデジタルトランスフォーメーションの推進	P10
II 災害レジリエンスNo.1の実現	P10

III 医療提供体制の強化	P11
IV 県民総活躍社会の実現	P11
V 地域経済循環の形成	P12
VI 官民共創コミュニティの育成	P13
VII 教育イノベーションの推進と「始動人」の活躍	P13
地域の土壌と施策展望(11地域)	P14
未来に向けて	P17
シンボルマークに込めた思い	P18
付録：MY VISION を描こう	P18

概要

2040年の群馬県の 目指す姿を描いた 「新・群馬県総合計画」

ビジョンと基本計画からなる新・群馬県総合計画

新・群馬県総合計画は県政を運営するための基本方針となるものです。

県総合計画は2040年の目指す姿を描いた「ビジョン」と、

これを踏まえて、2030年までに重点的に取り組む具体的な政策を体系化した「基本計画」の二段階で策定しています。

< 新・群馬県総合計画の構成 >

ビジョン(20年)

群馬から世界に発信する 「ニューノーマル」 ～誰一人取り残さない自立分散型社会の実現～

2040年までの群馬県を取り巻くさまざまな環境の変化を見通した上で、県民の幸福度向上に向けた「目指す姿」と「実現へのロードマップ」をバックキャスト思考で描いています。

● 計画期間

2021年～2040年(20年間)

※計画期間中も、常に時代の大きな変化を読み取り柔軟に対応します。

● 目指す姿

「年齢や性別、国籍、障害の有無等にかかわらず、すべての県民が、誰一人取り残されることなく、自ら思い描く人生を生き、幸福を実感できる自立分散型の社会」

基本計画(10年)

● 施策体系

ビジョンで描く2040年の姿を実現することを目標に、3つの視点から政策と施策を体系化しています。

【ロードマップ】

ビジョンで描く2040年の姿を実現するための施策を、ビジョンで示した政策の柱ごとに、ロードマップの形で体系化

【分野別・SDGs別重点施策】

2030年までの重点施策を分野別・SDGs別に体系化

【地域の土壌と施策展望】

県内の11地域の固有の価値である自然、歴史、文化等と今後の施策を展望

● 計画期間

2021年～2030年(10年間)

※5年経過時に見直しを行います。



「新・群馬県総合計画」を県内外に広く発信していくにあたり、「G VISION 2040」という愛称を付け、ロゴマークを制作しました。「群」の文字と多様性を表現したシンボルマークとともに、今後、さまざまな機会で使用していきます。

新・群馬県総合計画の ポータルサイト

新・群馬県総合計画は、2040年のビジョンの実現に向け、県民の皆さんとともに、さまざまな取り組みを進めています。関連情報は随時、こちらのポータルサイトで発信していきます。ぜひ、ご覧ください。
<https://gunma-v.jp>



ビジョンが未来をつくる

ビジョンは、群馬県が目指す2040年の姿を実現するための理念・哲学です。全国的に見ても、最も先駆的で大胆な要素を織り込んだビジョンを策定することが出来たと確信しています。本誌ではこのビジョンを、県民の皆さんに、よりわかりやすくお伝えしていきます。



知事
解説

魅力と幸福に満ちた
群馬県をつくる!

群馬県知事
山本一太

1年以上かけて県民、有識者と共につくった計画

今回の県総合計画は、これまでにない方法で1年以上かけて議論を重ねて策定しました。策定にあたっては、各分野で活躍する有識者から意見を聞く「策定懇談会」、外部有識者への「ヒアリング」、県内11カ所での「地域別懇談会」などを実施し、知事自らビジョンを説明し、さまざまな方々と意見交換を行いました。このほか県民の皆さんへのアンケートも実施しました。


< 県総合計画の策定の道のり >

● 策定懇談会 [2019年11月～2020年11月 全5回]

各分野における最新の知識や優れた知見を持った有識者から意見を聞くことを目的に設置。

メンバー構成：12名(県外・県内各6名、男・女各6名、年齢20代～70代)

県外有識者 6名	太田 直樹 氏	株式会社NEW STORIES代表	[地方創生]
	北野 菜穂 氏	株式会社アスコエパートナーズ執行役員	[IT]
	田中 元子 氏	株式会社グランドレベル代表取締役社長	[建築デザイン]
	中島 さち子 氏	ジャズピアニスト、数学教育者	[教育]
	丹羽 隆史 氏	株式会社タニタ取締役 株式会社タニタヘルスリンク取締役会長	[健康長寿]
	福井 隆 氏	東京農工大学大学院客員教授	[総合計画]
県内有識者 6名	小林 良江 氏	県立女子大学学長	[ジェンダーポリティクス・国際政治学]
	田中 仁 氏	株式会社ジズホールディングス代表取締役CEO	[商工業]
	手島 実優 氏	俳優、モデル	[現代の若者代表]
	手島 由紀子 氏	手島精管株式会社代表取締役社長	[女性経営者代表]
	平塚 浩士 氏	群馬大学学長	[科学教育]
	矢島 亮一 氏	NPO法人自然塾寺子屋理事長	[農業・国際交流]



策定懇談会(第1回)

※掲載の肩書きは実施当時のものです

● 外部有識者ヒアリング [2019年11月～2020年3月 全6回]

世界の潮流を踏まえた将来の群馬県の姿を描くため、全国的・国際的に活躍されている当代一流の識者をゲストに呼びヒアリングを実施。

第1回	2019年11月27日	ゲスト：デービッド・アトキンソン 氏 (株式会社小西美術工藝社 代表取締役社長)
第2回	2019年12月26日	ゲスト：武見 敬三 氏 (参議院議員、WHOユニバーサルヘルスカバレッジ親善大使)
第3回	2020年1月6日	ゲスト：マシ・オカ 氏 (デジタル視覚効果アーティスト、俳優)
第4回	2020年1月17日	ゲスト：三浦 瑠麗 氏 (国際政治学者、株式会社山猫総合研究所代表)
第5回	2020年2月19日	ゲスト：伊藤 和真 氏 (株式会社PoliPoli CEO、慶應義塾大学商学部在学中)
第6回	2020年3月25日	ゲスト：安宅 和人 氏 (慶應義塾大学SFC教授、ヤフー株式会社CSO)

※掲載の肩書きは実施当時のものです

● 地域別懇談会 [2020年7月～10月 県内11カ所の開催]

● 県民アンケート [2018年～2020年 全7回]

知事解説

ニューノーマル社会での トップランナーを目指す

素晴らしい魅力と可能性を秘めながらも、これまでと同じことをやっている、この大きく変化する時代の中では生き残れないという強い危機感を抱いています。今回、私たちが経験したことのない未曾有のパンデミックの中で、改めて、群馬県は先を見通した新たな考え方や手法をいち早く取り入

れ、新しい価値や富を生み出さなければならないことを痛感しました。首都圏に近いという一極集中の恩恵に甘え、先駆けとなる一歩を踏み出せなかった「何でも中位の群馬県」から脱却し、明るい群馬の未来を創っていきます。

私が知事を目指した
ときの思いです!



策定懇談会構成員 インタビュー動画

新・群馬県総合計画の策定に携わっていただいた、策定懇談会構成員12名のインタビュー動画を県動画ポータルサイト「tsulunon」で公開しています。



ニューノーマル時代に目指すのは 3つの幸福が調和した快疎な群馬県

2040年までに直面する課題に対応するためのビジョン

ビジョンは、2040年までの群馬県を取り巻くさまざまな環境の変化を見通した上で、県民の幸福度の向上に向けた

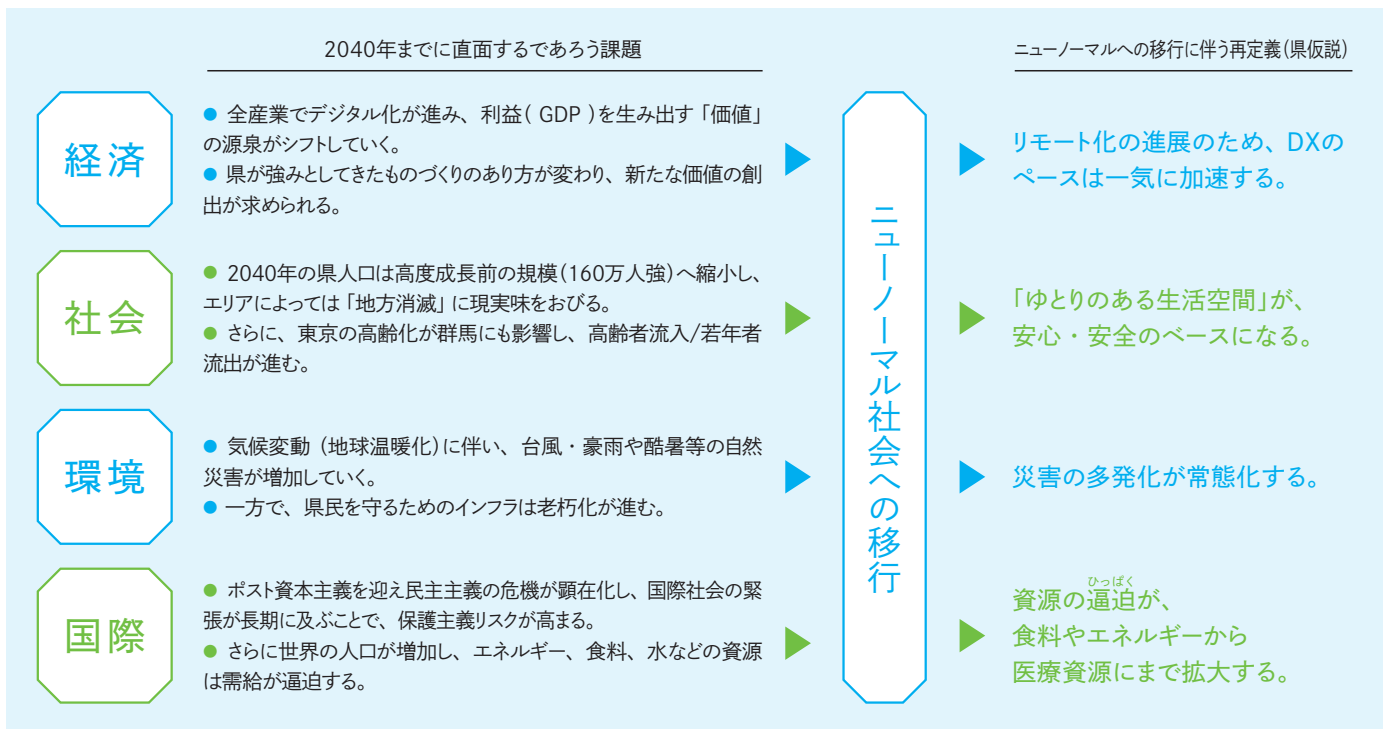
「目指す姿」と実現へのロードマップをバックキャスト思考*で描いたものです。このビジョンを策定した背景には、ニュー

ノーマル(新しい日常)への転換がもたらす変化と可能性が大きく影響しています。それはどのような変化でしょうか。

<ビジョンの構成>



変化の見通し



ニューノーマルへの移行で 今後の見通しに変化

群馬県が2040年までに直面するであろう変化を経済、社会、環境、国際の4つの

視点で整理しました。デジタルトランスフォーメーション(DX)*による産業構造の変化、人口減少、災害の頻発化・激甚化とインフラの老朽化、保護主義の台頭や資源需要の^{ひっばく}逼迫。このような厳しい見通しが予想される

中、新型コロナウイルス感染症の流行により、社会がニューノーマルへ移行しました。その変化は多くの人にとって痛みを伴うものでしたが、ビジョンではその変化をポジティブに捉え、2040年の群馬県の姿を描いています。

知事解説

群馬県にとっては チャンスです

新しい時代の到来は「地方(群馬県)にとってのチャンス」と捉える柔軟かつ前向きな思考が不

可欠です。実際のところ、ニューノーマル時代における地方の価値の再定義は、首都圏にありながら、豊かな自然と空間に恵まれた群馬県の強みを際立たせることになるかと確信しています。

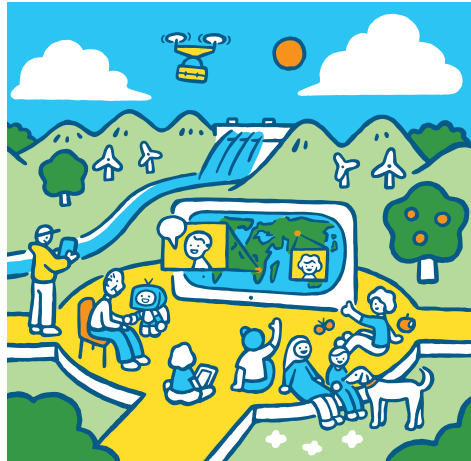


逆境は
チャンスです

用語解説

- バックキャスト思考…目指す将来の姿や目標を定め、そこから現在の課題などの現状を分析し今何をすべきかを考える思考方法。
- デジタルトランスフォーメーション(DX)…ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でよりよい方向に変化させること。

年齢や性別、国籍、障害の有無等にかかわらず、
すべての県民が、誰一人取り残されることなく、自ら思い描く人生を生き、
幸福を実感できる自立分散型の社会



目指すは「^{かいそ}快疎」な群馬県

ニューノーマルでは空間的に広く、密ではない地域へのニーズが高まりました。これは地方にとって長年の課題であった人口減少が「東京よりも魅力的」な要素となる可能性が高まったことを意味します。ゆとりのある生活空間が安全・安心のベースとなり、他にはない価値を持ち、安定した地域だけが、人々を惹きつける求心力を持ち、勝ち残る。群馬県が目指すのは、人々を惹きつけられる「^{かいそ}快疎」と定義しました。

3つの幸福の実現が「快疎」をつくる

ビジョンでは、2040年を目指す姿として、「誰一人取り残されることがない」こと、「幸福を実感できる」こと、そして「自立分散型の社会」であることを描いています。幸福とは、

人によって異なります。そこでビジョンでは、群馬県が目指す社会の幸福とはどのようなものなのかを、誰にとっての幸福なのかという視点で考え、「一人ひとりの幸福」、「社会

全体の幸福」、「将来世代の幸福」という3つの幸福を目指すこととしました。2040年の群馬県はこの3つの幸福が調和した社会を目指します。

	20世紀の捉え方	幸福への疑問	目指す「幸福」
一人ひとりの幸福	型が定まった「幸福」 ● 画一的な仕事・暮らし ● 標準的な家族の形	● 堅調な経済指標のわりに実感のない幸福	多様な「幸福」 ● 一人ひとり異なる仕事・暮らし ● 良好な人間関係（コミュニティ）
社会全体の幸福 （県民の共生）	固定的な「県民」 ● 県民=居住者・出身者	● 多様化する地域社会の参加者 ● 変化の激しい時代の弱者	多様な「県民」 ● 県民+=関係者・外国人・新たなマイノリティ
将来世代の幸福 （持続可能性）	この時代の「県民」 ● いまを切り取った成長・配分の最大化	● 地域社会や環境の持続可能性への懸念	未来を含めた「県民」 ● 「ドーナツ経済学」による持続的成長

知事解説

群馬県は「快疎」の好適地

群馬県が目指す「快疎」は、その地域にしかない自然、産業、文化などの「土壌」を最新のデ

ジタル技術にのせて発信できる人々を惹きつける求心力を持つ地域です。さらには、感染症に強いだけでなく、自然災害や資源途絶にも負けない地域でもあります。

3つの幸福

「県民の幸福度向上」は知事として最大のミッションです。幸福とは何か、その答えは人によって異なります。まして行政

が決めつけるものではありません。しかし、物理的豊かさだけでは充足されることのない幸福が、今ほど求められている時代もないのではないのでしょうか。



「県民の幸福度向上」がミッションです



「始動人」と「官民共創コミュニティ」 自立分散型の社会をかなえる 2つのイノベーション

目指す姿

2軸で目指す自立分散型の社会

ビジョンで描く2040年の姿は「自立分散型の社会」です。この概念が「誰一人取り残さず幸福を実感できる社会」を実現する

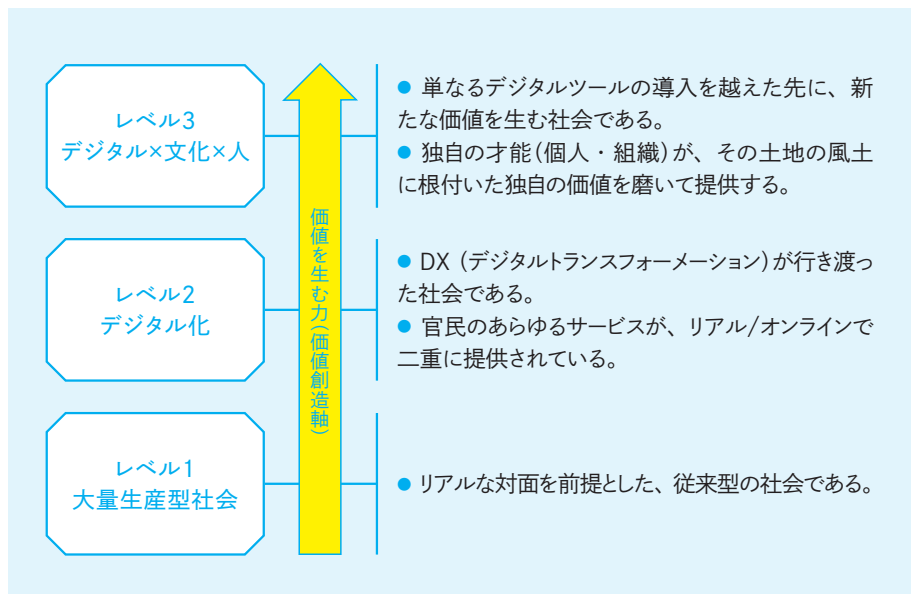
鍵となる概念です。ビジョンでは「自立分散型の社会」を2つの軸で描きました。それが「新たな価値を生む自立分散型社会」と

「持続可能な自立分散型社会」です。この2つの軸を推し進めた交点に、県民の幸福度の向上が実現します。

始動人

A 価値を生む自立分散型の社会

2つの軸のうちの1つは「価値創造軸」です。変化の見通しで見たように、今後20年間はデジタル化とともに価値の源泉がデータにシフトします。そのためデジタル化は必ず取り組まなければなりません。デジタル化に対応しながら群馬県が「快疎」な地域として魅力を増すためには、デジタルを地域固有の価値(文化)と結び付け、未来を妄想することで、新しい価値を生み出していく必要があります。「デジタル×文化×人」が、これからの群馬県の方程式です。

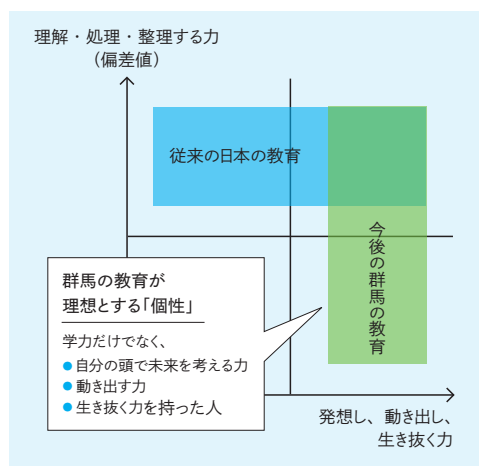


始動人

GVISION2040
新・群馬県総合計画

他人が目指していない領域で動き出す「始動人」

新たな価値を生むことで富が得られる時代に求められる人物像を私たちは「始動人」と定義しました。「始動人」とは、「自分の頭で考え、他人が目指さない領域で動き出し、生き抜く力を持つ人」のこと。「始動人」は特別な人ではなく、誰もがその「かけら」を持っています。この「かけら」を育てていくことが重要で、このための長期戦略として、教育イノベーションを推進。「始動人輩出県」と認知されることをゴールに据えます。



知事解説

創造が価値を生む時代に対応する人材

右肩上がりに経済成長してきた時代には、決められたルールと目標の中で、効率的に達成で

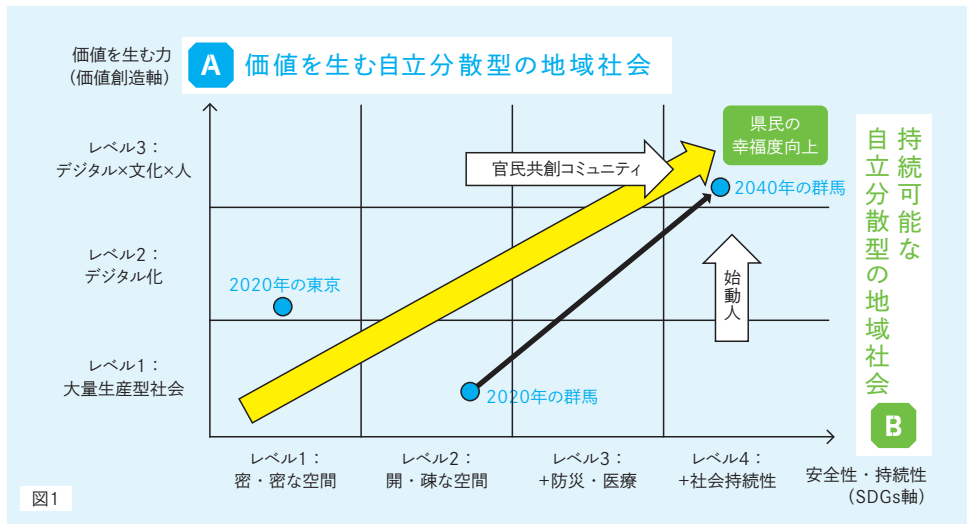
きる人物が評価されました。しかし、ルールや目標が明確でない中では、「始動人」が求められる人物像です。



誰もが「始動人」の「かけら」を持っています



教育イノベーションの推進 (STEAM教育)



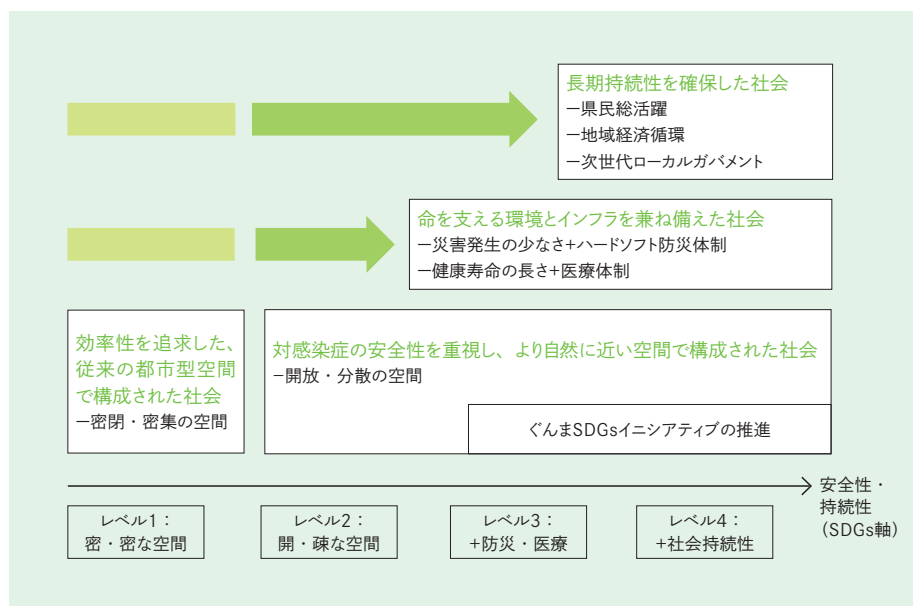
自立について

私たちが目指す「自立」は、独立・孤立ではありません。「自立」とは、特定の関係に過度に依存せず、多様で開かれた関係性の中で、主体性を発揮できることだと考えます。

官民共創コミュニティ

B 持続可能な自立分散型の社会

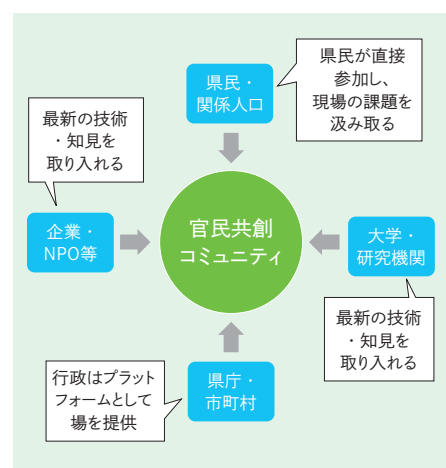
自立分散型の社会を実現するためのもう1つの軸は「SDGs軸」です。いくら新しい価値を生む産業があっても、地域として持続可能性がなければ将来世代は幸福になることができません。ビジョンでは持続性を維持するために必要な3つの要素を示しています。1つは、埋もれた才能を発掘する「県民総活躍」。2つめは、地域内の資源と資金の循環を高める「地域経済循環」。そして3つめは、産学官民が多様な分野で連携し、地域の課題を解決する「官民共創コミュニティ」です。



**官民共創
コミュニティ**
GVISION2040
新・群馬県総合計画

「官民共創コミュニティ」が100年持続する公共をつくる

今、世界中で、産学官民が多様な分野で連携し、地域の課題を解決する挑戦が進められています。ビジョンでは、こうした取組を改めて「官民共創コミュニティ」という言葉で表現しています。官民の力がつながることが、公共にイノベーションを生みます。共創の重要性を再認識し、県内各地でこの活動を加速させていきます。この中核的な拠点として県庁32階に官民共創スペース「NETSUGEN」を設置しました。



知事
解説

地域の好循環で新たな価値を生む

「快疎」な地域で「始動人」を育成し、その「始動人」がさまざまな分野で活躍するとともに、「官

民共創コミュニティ」の中核になっていく。こうした好循環をつくっていくことが、群馬県に人々を惹きつける、新たな価値や富を創り上げていくことにもつながります。



県内各地で共創を生み出しましょう



県庁舎32階官民共創スペース「NETSUGEN」

2040年に向けた政策

実現へのロードマップ

A 2023年までの重点政策

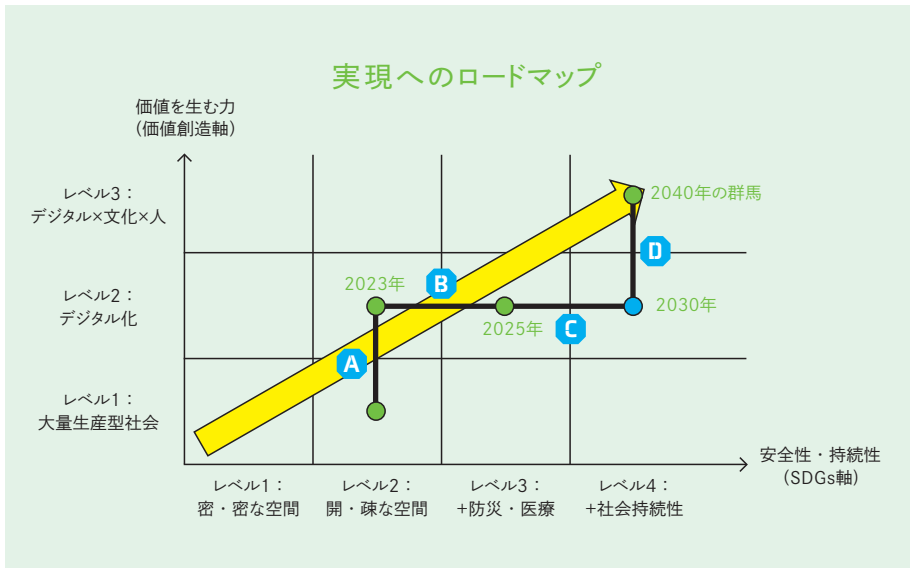
喫緊の課題は、コロナが必要性を浮き彫りにしたデジタル化。現状を挽回すべく、一気に取組を進め、2023年までに、日本最先端クラスのデジタル県となることを目指します。

B 2025年までの重点政策

コロナでさらに注目を集めた医療の提供体制。気候変動の影響により、激甚化、多発化する自然災害。県民の命に関わる安全確保の体制を、万全に整えます。

C 2030年までの重点政策

長期持続性の3つの柱(県民総活躍・地域経済循環・官民共創)を確立。国連がターゲットとする2030年には、県内SDGsの完了を宣言します。



D 2040年までの重点政策

自ら考え、新しい領域で動き出す力。後半の10年は、そんな力を持つ人たちが育ち、集い群馬をリードします。2040年には、新たな教育で育った「始動人」が行政・産業の

中核を占め、世界最高クラスの魅力を備えた「新・群馬」が誕生します。群馬県は、常に時代の大きな変化を読み取り、新しい未来を想像し、進化し続けます。

< 7つの政策の柱 >

バックキャスト思考で描いた2040年に目指す姿の実現に向け、7つの政策の柱を設定しました。

	2020	2023	2025	2030	2035	2040
1 行政と教育のデジタルトランスフォーメーションの推進	→					
2 災害レジリエンスNo.1の実現	→					
3 医療提供体制の強化	→					
4 県民総活躍社会の実現	→ 制度導入・立上げ		→ 社会参加率の増加			
5 地域経済循環の形成	→ 先進エリアでの施行		→ 県内全域への拡大			
6 官民共創コミュニティの育成	→ 組織の立上げ		→ 活動の拡大・深化			
7 教育イノベーションの推進と「始動人」の活躍	→ 新たな教育の拡大		→ 始動人の社会参加		→ 始動人の活躍が新たな始動人を育て、惹きつける自然循環	

知事解説

新・群馬県総合計画はこれからが始まりです!

新・群馬県総合計画は策定して終わりではありません。具体的に絵(ビジョン)を描いた後は、いかに実行するかが重要です。この

ビジョンは、県の力だけで実現出来るものではありません。市町村、企業、団体、県民の皆さん一人ひとりが考え始め、動き出すことで目指す姿に一步步近づきます。一緒に力を合わせ、私たちの群馬県を力強く前進させていきましょう。



基本計画

ビジョン実現に向けた 7つの政策の柱

基本計画は、ビジョンの実現へのロードマップで設定した7つの政策の柱ごとに、2040年の姿、具体的な施策、KPI(重要業績指標)を設定。

各政策の進捗、達成状況を毎年度把握し、5年経過時の計画の見直しに反映させていきます。

政策
1

行政と教育のデジタルトランスフォーメーションの推進

2023年までに最先端のデジタル県となることを目指し、全体最適化と個別最適化を両立した社会課題の解決の前提となるデジタル化に集中的に取り組む。

<2040年の姿>

2040年の群馬県の行政は、ICTなど先端技術を駆使し、職員数が減る中でも必要な行政サービスを提供している。また、さまざまな主体が結びついて公的な役割を担うことで多様化する住民ニーズに対応するプラットフォームとなっている。教育は、社会全体のデジタル化の進展の中で、ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学び、群馬の土壌を生かした探究的な学びにより、時代を先取りした「群馬ならではの新しい学び」を一層推進している。

<主な施策>

- | | |
|----|---|
| 行政 | ● 申請手続のデジタル化を進め、県民の利便性を向上 |
| | ● デジタル技術を活用し定型的な業務の効率化を図り、職員は政策立案業務などに注力できる環境 |
| | ● デジタル技術を活用し、場所にとらわれない働き方(テレワーク)を実現 |
| 教育 | ● ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びを推進 |
| | ● 県内の小中学生及び高校生1人1台端末を整備・活用(端末整備はR2年度中) |
| | ● 学びのデータの蓄積による小中高連携を推進 |

<主なKPI>

● 行政手続電子化率	スタート時 2025	集計中 100%
● 児童生徒のICT活用を適切に指導する能力が身につけている教員の割合	71.7%	95%以上 (全国26位)

- 用語解説**
- デジタルトランスフォーメーション(DX)…ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること。
 - ICT…「Information and Communication Technology(情報通信技術)」の略で、通信技術を活用したコミュニケーションを指す。情報処理だけではなく、インターネットのような通信技術を利用した産業やサービスなどの総称。

政策
2

災害レジリエンスNo.1の実現

気候変動の影響により、激甚化、多発化する自然災害から県民の命を守るための安全を確保する体制確立に向け、2025年までに集中的な取組を進める。

<2040年の姿>

2040年の群馬県は、気候変動の影響等により、気象災害の頻発化・激甚化が常態化する中、ハード・ソフト両面からレジリエンスの強化が進むことで、経済活動の継続性が確保され社会的・経済的損失のリスクが低くなるとともに、県民の防災意識が向上し迅速かつ適切な避難行動がとれるようになり人的被害のリスクが低くなるなど、安全・安心な地域社会の基盤を確立している。

<主な施策>

- 越水・溢水や内水被害が発生した地域などの安全性の向上
- 頻発化する豪雨に対応する河川やダム機能の維持・回復
- 災害時にも機能する強靱な道路ネットワークの構築
- 水害による「逃げ遅れゼロ」に向けた避難行動の促進
- 災害に強い森づくり

<主なKPI>

● 水害リスクが軽減される人家戸数	スタート時 2025	8,819戸 32,818戸
● 水害リスクが軽減される産業団地数	1団地	10団地

- 用語解説**
- 災害レジリエンス…想定外の大規模な災害時においても、致命傷を回避しつつ被害を最小化する「防災力」、そして、県民の暮らしや経済活動を速やかに立ち直らせる「回復力」のこと。災害に対する強靱性。
 - 共助…コミュニティ内の近隣住民などがお互いに助け合うこと。自助(自分や家族の暮らしを守ること)や公助(行政等による支援・救助)の中間とされる。

政策
3

医療提供体制の強化

誰一人取り残さない、必要な医療が持続的に切れ目なく提供される体制構築に向け、2025年までに集中的な取組を進める。

<2040年の姿>

2040年の群馬県は、医療関係者の役割分担や連携を進めるとともに、ICTなど先端技術を活用することで、限られた医療資源を効率的効果的に活用し、医師・医療従事者が働きやすい環境で、誰一人取り残されず必要な医療が持続的に切れ目なく提供される仕組みを構築している。

<主な施策>

- 今後の医療需要を見据えた医療機関同士の役割分担と連携を推進
- 救急・災害医療の連携体制を構築
- 小児・周産期医療の連携体制を構築
- 遠隔医療の推進、在宅医療連携体制を構築
- 医師・医療従事者の働き方改革、地域および診療科の医師偏在対策
- 県立病院の機能強化と経営の安定化

<主なKPI>

	スタート時	2025
● 回復期病床の数(回復期的急性期病床を含む)	5,276床	6,067床
● 訪問診療を行う病院・診療所の数	487カ所以上	531カ所

用語解説 ● 地域医療構想…全国の都道府県が、2025年に向け、限られた医療資源を効率的・効果的に活用し、切れ目のない医療・介護サービスの提供体制を構築するため、医療機能及び構想区域ごとに、将来の医療需要と病床の必要量等を推計するとともに、地域の実情に応じた施策の方向性等を定めるもの。群馬県では2016年に策定し、病床の機能分化と連携を進めるとともに、受け皿となる在宅医療・介護サービスの充実などに取り組んでいる。

政策
4

県民総活躍社会の実現

多様な県民が誰一人取り残されることなく活躍できる環境を整え、県民総活躍社会の基礎をつくる。

<2040年の姿>

2040年の群馬県は、年齢や性別、国籍、障害の有無にかかわらず、多様な県民がそれぞれの場面で役割を担い、活躍することにより、活力にあふれた地域となっている。

<主な施策>

子どもたちの将来の活躍までの支援

- 生活困窮世帯への学習・生活支援の実施
- 子どもの居場所づくりの推進
- ひとり親が安心して就業でき、育児と仕事が両立できる環境を整備

性別に関わらず活躍

- 「固定的な性別役割分担意識の解消(ジェンダーの平等)」が家庭や地域社会にもたらす意義について普及を図り、社会全体の意識改革を推進
- 従来の働き方では困難な状況にある人も含め、希望する女性が、職場において持てる能力を発揮できるジェンダー平等の社会の実現

健康寿命の延伸と高齢者の活躍

- 活力ある健康長寿社会実現に向けた「群馬モデル」に基づく施策展開
- 市町村におけるフレイル予防の取組支援

障害者の活躍

- 障害に対する情報発信や理解を深める研修等の開催
- 働く意欲のある障害者が活躍できる社会の実現

多文化共生・共創

- 外国人県民のコミュニケーション支援・外国人県民が安心して暮らせる環境を創るための生活支援
- ぐんまを創る「仲間」である外国人県民とともに新たな価値を創造していくことを推進

移住者や関係人口を構成する人々の活躍

- ぐんま暮らしのブランド化による移住促進・関係人口創出

多様な県民が支え合い活躍する共生社会の実現

- 各人権分野の関係機関や支援団体等と連携・協力しながらさまざまな啓発や相談を実施
- 地域包括ケアシステムの深化・推進
- 誰もが働きやすい職場環境づくりの推進

多様な県民の活躍を支える移動手段の確保

- 地域的な暮らしの足の確保
- 新技術を活用した効率的で持続可能な移動手段の確保

<主なKPI>

	スタート時	2025
● 子どもの居場所がある市町村数	20市町村	35市町村
● 管理職に占める女性の割合	16.1%	33%
● 民間企業における障害者実雇用率	2.14%	2.30%
● 移住者数	962人/年	1,400人/年
● 年次有給休暇取得率	50.3%	70%

用語解説 ● フレイル…加齢とともに筋力や認知機能が低下し、生活機能障害・要介護状態などに陥りやすい状態。
● 関係人口…移住した「定住人口」でもなく、観光にきた「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に交わる地域外の人々。
● AIデマンド交通…利用者の予約により指定された時間と場所へ、AIを活用した配車等により送迎する交通サービス。



地域経済循環の形成

地域を巡る資源と資金。持続可能性を高める鍵は、私たちの存在の基盤である自然との共生を実現するための資源生産性の高い地域社会を創るとともに、私たちの生活を支える地域経済も特定の外部に依存することなく自立したものにすることにある。

<2040年の姿>

2040年の群馬県は、2050年に「温室効果ガス排出量ゼロ」「災害時の停電ゼロ」「プラスチックごみゼロ」「食品ロスゼロ」を目指す、『5つのゼロ宣言』の実現に向け、取組が進捗し、着実に成果が出

ている。また、デジタルに群馬の土壌を掛け合わせた新たな価値を持続的に創出するエコシステムができあがり、各産業分野で競争力が強化され、地域に良質な雇用が生まれ、地域での消費が活

性化する地域経済の循環により、個性を持った地域経済圏を形成している。

<主な施策>

資源生産性の高い循環経済の育成

- 地域における自立分散型電源の普及を推進する
- 5Rを普及啓発するとともに、代替プラスチック技術の開発支援、ワンウェイプラスチックから再生プラスチック利用への転換を推進
- MOTTAINAI運動の実践を通して、県民及び事業者に食べ物を無駄にしない行動を定着させる
- 尾瀬の魅力再発見を推進し、官民共創による保全と利用及び新たな魅力づくりにより、尾瀬の可能性を最大限に発揮

林業の競争力強化

- 県産木材加工体制の強化(製材・加工体制の再編)
- 建築物の木造化
- 林業システムの改革(森林資源情報の高度化、森林のゾーニング導入、デジタル化・自動化による低コスト林業の取組)
- 県・市町村・林業事業者が参画する森林資源情報の共有・高度利用システムの構築

農業の競争力強化

- 農地利用の最適化と生産基盤の整備による農業の成長産業化
- ニューノーマルにおける園芸産地等の競争力強化
- 国際競争力に打ち勝つ強靱な畜産経営の確立
- 県産農畜産物の「強み」を生かした魅力発信と需要拡大
- 農畜産物等の輸出促進による販路拡大

産業の競争力強化

- デジタルとアナログに通じた経営者、エンジニア等を養成し、デジタル技術とデータを活用した生産性向上を図る
- 今後も人口・市場規模の増加が見込まれる海外市場(グローバルビジネス)への挑戦を支援
- サプライチェーンの多元化や国内回帰を支援
- ITや新たな技術を積極的に活用し、商業・サービス業が抱える課題解決を行うことで、稼げる地域・まちを創出

良質な雇用の創出と担い手の育成

- [林業] 林業事業者の組織強化
- [農業] ニューノーマルに対応した多様な農業従事者の確保
- [建設業] 建設産業の働き方改革
- [未来投資促進] 魅力的な雇用の創出等、高付加価値企業の多様な投資を促進
- [事業承継] 事業承継支援の充実
- [IT人材育成] 産学官連携による各世代に対するIT教育や、デジタル関連シーズを活用した新たな事業への取組を推進
- [就労支援] 大学卒業期や結婚・育児・親の介護等、各世代のステージに応じた情報発信を行い、県内就職者を確保

<主なKPI>

	スタート時	2025
● 再生可能エネルギー導入量	5,689,149kWh/年	7,059,000kWh/年
● 木材産業産出額	826億円	1,020億円
● 農業産出額	2,361億円	2,600億円
● 県内総生産(名目)	8兆9,704億円	9兆5,000億円
● 1人あたり賃金	431万8千円	480万円

用語解説

- 5R…ゴミを減らすためにできる5つの行動。Reduce(発生抑制)、Reuse(再利用)、Recycle(再生利用)、Refuse(断る)、Repair(修理)。
- サプライチェーン…製品の原材料・部品の調達から、製造、在庫管理、配送、販売、消費までの全体の一連の流れのこと



官民共創コミュニティの育成

長期持続性を高めるための取組の場として、さまざまな分野で多様な「県民」の交流からイノベーションが生まれる「官民共創コミュニティ」を立ち上げていく。

<2040年の姿>

2040年の群馬県は、さまざまな分野で産学官民が連携し、群馬の土壌を生かした個性あふれるたくさんの「官民共創コミュニティ」が立ち上がり、地域で重層的に重なり合っ、地域の魅力を創り出す。この魅力が求心力となり、新たな「始動人」を惹きつけ、「官民共創コミュニティ」で活躍することで、官民共創コミュニティが自然に立ち上がり、活動し、課題解決に結びつく循環が生まれている。

<主な施策>

官民共創コミュニティの芽をつくる

- 地域ビジョンづくり支援とファシリテーターの育成

地域課題解決

- 住民主体の地域活動(地域運営組織、地域づくり団体等)の促進

住み続けられるまちづくり

- 公共施設・空間の新たな活用による「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の創出

官民共創スペース「NETSUGEN」の運営(県庁32階)

- 多様な人材の交流、新たな事業への挑戦、地域課題の解決に繋がる事業実施

スタートアップ支援

- 自律的にイノベーションが起きる「スタートアップ・エコシステム」の形成

スポーツによる地域創生

- アウトドアスポーツを活用して、交流人口を増大させる

文化による地域創生

- アートを活用した地域振興

観光の新たな魅力創出

- ニューノーマルに対応した観光地づくり

森林と農村の新たな価値の創出

- 「森林ビジネス」の創出

豊かな水を守る利根川水系の「上流社会」としての責任

- 自立した林業経営による森林整備の推進

<主なKPI>

	スタート時	2025
● 地域ビジョンから生まれた共創の取組件数(累計)	—	45件
● 地域運営組織数	66団体	90団体
● スタートアップ支援事業による支援起業家数(累計)	—	150件
● 「森林ビジネス」取組地域数(累計)	13地域	25地域

用語解説

● ファシリテーター…原義は促進者となるが、ここでは参加者の合意形成や目的の達成を促すため、中立的な立場からワークショップ等の進行を行う者。
● スタートアップ…短期間で、イノベーションや新たなビジネスモデルの構築、新たな市場の開拓を目指す動き、または概念。



教育イノベーションの推進と「始動人」の活躍

自ら考え、新しい領域で動き出す力を持つ人(始動人)が育ち、集い、群馬をリードする社会を目指し、教育改革を進める。

<2040年の姿>

2040年の群馬県は、多様性を認め合い、豊かな人間性を育む教育に加え、ICTなど先端技術を活用した個別最適な学びと協働的な学び、群馬の土壌を生かした探究的な学びによる、「群馬ならではの新しい学び」で育った「始動人」が、産業や行政、地域そして教育などさまざまな領域で活躍し、新たな「始動人」を輩出している。

<主な施策>

- DXを基盤とした新しい学びの確立
- ICTを活かした教育の推進により、障害の状態に応じた個別最適化された学びを推進
- 多様な学習機関と連携し、さまざまな学習サービスについて、ICTを活用して体系的、総合的、広域的に提供
- 大学連携による産業人材育成
- 中高生をメインターゲットに自由な発想を育成

<主なKPI>

課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う児童生徒の割合

	スタート時	2025
● 小6	79.7%	95%以上
● 中3	76.2%	95%以上

基本計画

地域の土壌と 施策展望

県内11地域の固有の価値を見つめ、 地域ごとの課題と施策を整理する

地域ごとの未来ビジョン策定など、これから展開するさまざまな共創の取組のプロローグとして、11の地域ごとに、デジタルと融合し新たな価値を生む「地域の土壌」と、地域の持続可能性につながる「施策展望」を策定しました。

前橋地域

市町村：前橋市
域内人口：336.1千人
域内面積：311.6km²

製糸業の繁栄を基礎に県都として発展してきた前橋地域は、前橋赤十字病院をはじめとする充実した高度医療機関、群馬大学など多くの大学を有するなど都市的な強みに加え、日本百名山の赤城山の自然にも恵まれ、また全国有数の農業生産高を誇るなど、バランスのとれた住みやすい地域です。

一方で、中心市街地の衰退や公共交通の利便性低下などの課題を抱えています。そのため、官民共創によるアーバンデザインに基づくまちづくりや「スーパーシティ」への取組、赤城山を中心とした観光PR、「スローシティ」の理念に基づく移住促進などにより一層の活力ある地域を目指していきます。



前橋市街地から望む赤城山の遠景



大室古墳群のひとつ「中二子古墳」と埴輪などの出土品

北群馬・渋川地域

市町村：渋川市、榛東村、吉岡町
域内人口：113.2千人
域内面積：288.7km²

北群馬・渋川地域は、群馬県のほぼ中央部に位置し、関越自動車道、上信自動車道ほか各種バイパス道の整備により、交通網が充実しています。この交通アクセスの利便性から、多くの観光客が管内にある四季折々のフルーツ狩りが楽しめる観光農園や、こけしの絵付け体験施設、美術館や博物館、遊園地などに訪れています。こうした観光資源に加え、毎年100万人を超える観光客が訪れる伊香保温泉を観光の拠点として、地域連携DMOによる地域資源を活かした観光誘客・情報発信など、広域的な地域・観光振興に取り組んでいます。

一方で、管内市町村は人口増加地域と減少地域が混在し、置かれている状況が異なることから、各地域の状況を踏まえながら、災害に強い安全・安心なまちづくりや子育て支援、雇用の確保等により、移住・定住を促進し、活力ある元気な地域づくりを目指します。



伊香保温泉【(一社)渋川伊香保温泉観光協会提供】ぶどう狩りで取れるぶどうの各品種【榛東村提供】

佐波伊勢崎地域

市町村：伊勢崎市、玉村町
域内人口：249.7千人
域内面積：165.2km²

住民の少子高齢化により、人口が減少し、労働力不足が深刻化する中、佐波伊勢崎地域のさまざまな分野の進展には、外国人材は欠かせない存在であり、今後と言語、習慣、文化が異なる多様な外国人住民の定住化が進んでいくことが予測されます。佐波伊勢崎地域が継続して発展していくためには、国籍を問わず、住民の誰もが共に手を携え、共生を進め、相互に理解を深める施策を展開することが重要です。

また、首都圏に近接していることや高い交通利便性、平坦な地形を活かして、工業の発展や農業の振興など地域産業の活力向上に取り組めます。さらに、「田島弥平旧宅」や道の駅「玉村宿」など特色のある地域資源を活用した地域振興を推進します。



伊勢崎宮郷工業団地(伊勢崎市)



道の駅「玉村宿」(玉村町)

高崎・安中地域

市町村：高崎市、安中市

域内人口：430.5千人

域内面積：735.5km²

本県の交通の要衝（玄関口）であり、1日6万人以上の乗降客を抱える「高崎駅」を核とした振興が、高崎・安中地域の鍵のひとつです。特に、近年整備された「Gメッセ」や「高崎芸術劇場」、「高崎アリーナ」などの集客施設も有効に活用した施策を展開するとともに、周辺地域へもその活力を波及させ、地域の発展を牽引していきます。

一方で、本格的な人口減少の影響を大きく受ける地域も抱えており、地域コミュニティの衰退や活力の低下に対応する施策が必要です。交通の利便性に加え、豊かな自然や歴史・文化、さらにはスポーツなどを核に地域の優位性を発揮するとともに、国際的な展開も視野に入れて、地域振興・観光振興に取り組めます。



上空から見た高崎駅周辺【高崎市提供】 碓氷第三橋梁(めがね橋)【(一社)安中市観光機構提供】

多野藤岡地域

市町村：藤岡市、上野村、神流町

域内人口：68.1千人

域内面積：476.7km²

藤岡市は、高速自動車交通の要衝であり、恵まれた立地を生かし、多様な企業の誘致を進め、上信越自動車道藤岡ICに隣接する人気の高い道の駅「ららん藤岡」を核として観光の振興に取り組んでいます。世界文化遺産「高山社跡」や桜山公園、いちご「やよいひめ」、アーティスト・イン・レジデンスなどの情報を広く発信し、地域の魅力を高めます。

一方、奥多野地域（上野村、神流町）は、人口減少が著しく、高齢化も進展しており、移住者の増加や産業の振興が求められています。豊富な森林資源を活用するとともに、上野村の森林セラピー体験や清流神流川の魅力が味わえる「神流の涼」など、奥多野地域が誇る豊かな自然を活かして地域の活性化を促進します。また、エネルギーの地産地消に向けた取組が資源循環のモデルとなるよう施策を展開します。



清流での川遊びでにぎわう「神流の涼」【神流町提供】 県育成品種「やよいひめ」【JAたのふじ提供】

甘楽・富岡地域

市町村：富岡市、下仁田町、南牧村、甘楽町

域内人口：70.4千人

域内面積：488.7km²

甘楽富岡地域は、妙義山をはじめとした豊かな自然や世界遺産である富岡製糸場、荒船風穴等の観光資源に恵まれています。これらの資源を活かし、いかに地域の活性化を図るかが課題となっています。そのために地域の重要資源であり地域経済に与える影響が大きい富岡製糸場等を核としたにぎわいのある、魅力あふれた地域づくりを行い、人・物・情報を呼び込むことにより地域を活性化し、地域に暮らす人々がそれぞれ役割をもち、いきがいを感じることで年齢や性別、国籍、障害の有無にかかわらず、誰一人取り残されることなく、自ら思い描く人生を生き、幸福を実感できる地域を目指します。



世界遺産 富岡製糸場(富岡市)

妙義山 パノラマパーク(富岡市)

吾妻地域

市町村：中之条町、長野原町、嬭恋村、草津町、高山村、東吾妻町

域内人口：54.3千人

域内面積：1,278.6km²

吾妻地域は、雄大な浅間山や草津白根山をはじめとする豊かな自然環境や、草津温泉をはじめ四万・万座など温泉の宝庫です。また、豊かな自然の恩恵を受け、魅力的な観光資源に溢れており、観光業のほか、夏秋キャベツをはじめとする高原野菜の生産など農業が盛んな地域でもあります。

一方で、人口減少が急速に進んでいる地域のため、地域資源のポテンシャルを活かし、持続可能な地域づくりを進め、「自然・伝統・絆がかがやく美しいふるさと」として大切に受け継いでいけるよう取り組みます。



草津温泉湯畑(草津町)

八ッ場ダム(長野原町)

利根沼田地域

市町村：沼田市、片品村、川場村、昭和村、みなかみ町
域内人口：81.0千人
域内面積：1,765.7 km²

利根沼田地域は、谷川岳・尾瀬をはじめとする豊かな自然に恵まれ、主な産業としては、高原野菜や観光農園を中心とした農業、豊富な森林資源を活かした林業、バラエティーに富んだ温泉群やアウトドアフィールドを活かした観光業が中心で、首都圏からのアクセスも良好であることから、大きなポテンシャルを有しています。また、雄大な山々がもたらす利根川の豊かな水に支えられた地域であり、「利根川源流の地」です。

施策展望としては、「豊かな自然と水」を活かした農業振興や水環境保全・循環型社会の推進、森林保全や森林文化の継承、地域資源を活かした観光振興や移住定住促進など、農業・林業・観光業を中心に、「利根沼田地域定住自働圏構想」に基づく圏域連携のもと持続可能な自立分散型社会の実現に向けて取り組みます。



激流のラフティング(みなかみ町)



赤城高原に広がるレタス畑(昭和村)

太田地域

市町村：太田市
域内人口：224.4千人
域内面積：175.5 km²

太田地域は、製造品出荷額で県内随一の工業地域です。(株)SUBARUを中心とした輸送機器産業の振興が地域発展の鍵となります。地域が持続的発展を続けるためには、将来を担う人材の育成や既存企業の高付加価値化などとともに、新産業創出や起業への支援などによる産業構造の多様化が求められています。地域には外国人住民も多いため、共生が課題となっています。また、少子高齢化の影響が中心市街地の空き店舗増加などに現れており、地域の活力向上が求められています。豊富な歴史遺産や各地のまつりなどの郷土文化、八王子山公園をはじめとする観光資源など、特性を活かした地域振興に取り組めます。



世良田東照宮



(株)SUBARU矢島工場

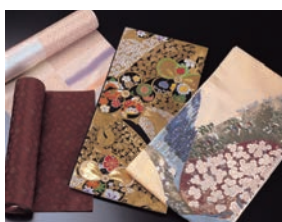
桐生・みどり地域

市町村：桐生市、みどり市
域内人口：160.5千人
域内面積：482.9km²

桐生・みどり地域は、繊維産業や銅街道に係る独特の歴史、都市部と山間部が近接した自然豊かで「快疎」な環境を有しており、これらの資源を生かした地域振興や観光振興を進めます。また、住民主体の各種地域団体の活動が大変活発に行われているほか、群馬大学や桐生大学の産学官連携事業も成果を上げています。こうした状況を素地として、さまざまな官民共創コミュニティに多様な人々が関わり、地域課題の解決や各種産業の振興に取り組むことで、人口減少が進む中でも地域の活力や持続性の向上を図ります。更に、産学官連携やデジタル技術を活用した特色ある教育・人材育成の取組を進めることにより、イノベーション気質を持った人材の活躍を促すとともに、この地域に住み続けたい、移り住みたい人の増加を図ります。



桐生八木節まつり【桐生市提供】



伝統的工芸品に指定されている「桐生織」

邑楽館林地域

市町村：館林市、板倉町、明和町、千代田町、大泉町、邑楽町
域内人口：181.2千人
域内面積：193.3km²

邑楽館林地域は、全体がほぼ平坦地で、川・沼・平地林など、水と緑が豊かな地域です。また、県内で最も東京に近く、土地や水資源に恵まれていることから、製造業等が集積し、外国人住民の居住割合も高い地域です。利根川や渡良瀬遊水地、日本遺産の「里沼」など豊かな自然や美しい水辺の風景といった観光資源や、先進的な多文化共生への取組、多彩な食文化など、魅力のある地域資源が豊富にあり、地域をあげてこれらを磨き上げていくことにより、この地域の発展に繋がっていきます。

一方で、河川の氾濫等の水害に備えた体制整備や十分な医療資源の確保といった喫緊の課題を抱えており、これらに対する施策に重点的に取り組みます。また、首都圏に近いという立地条件を活かし、既存の住宅団地を受け皿とするなど、移住・定住を促進し、人口減少対策も進めます。



つつじが岡公園のつつじ(館林市)



渡良瀬遊水地(板倉町)

2040年

みずから思い描く人生を生き、 幸福を実感できる社会へ

新型コロナウイルス感染症の拡大により、
私たちの生活様式に抜本的な変化がもたらされました。

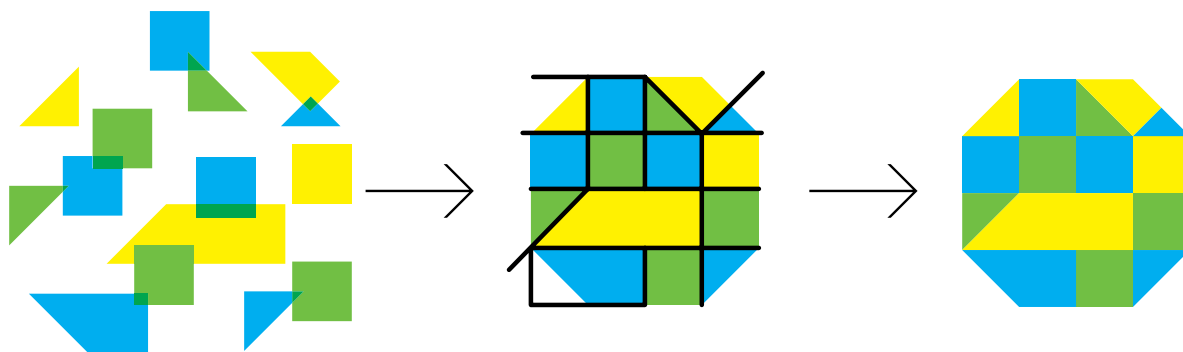
その変化に気づきながらも、動き出さなかったり、
現状そうはできないと目先の問題ばかりに
とらわれていないでしょうか。

群馬県は、2040年の目指す姿へ向けて新たな一歩を踏み出しました。



あなたはどんな未来を思い描き、
どんな一歩を踏み出しますか？

〔G VISION 2040 シンボルマークに込めた思い〕



さまざまな形で構成された「群」をシンボルに

「年齢や性別、国籍、障害の有無等にかかわらず、すべての県民が、誰一人取り残されることなく、自ら思い描く人生を行き、幸福を実感できる自立分散型の社会」。こ

のシンボルマークはビジョンで目標に掲げた、2040年の姿を表現したものです。

長方形、正方形、三角形など多様な形が1つになり、群馬をつくっています。また、

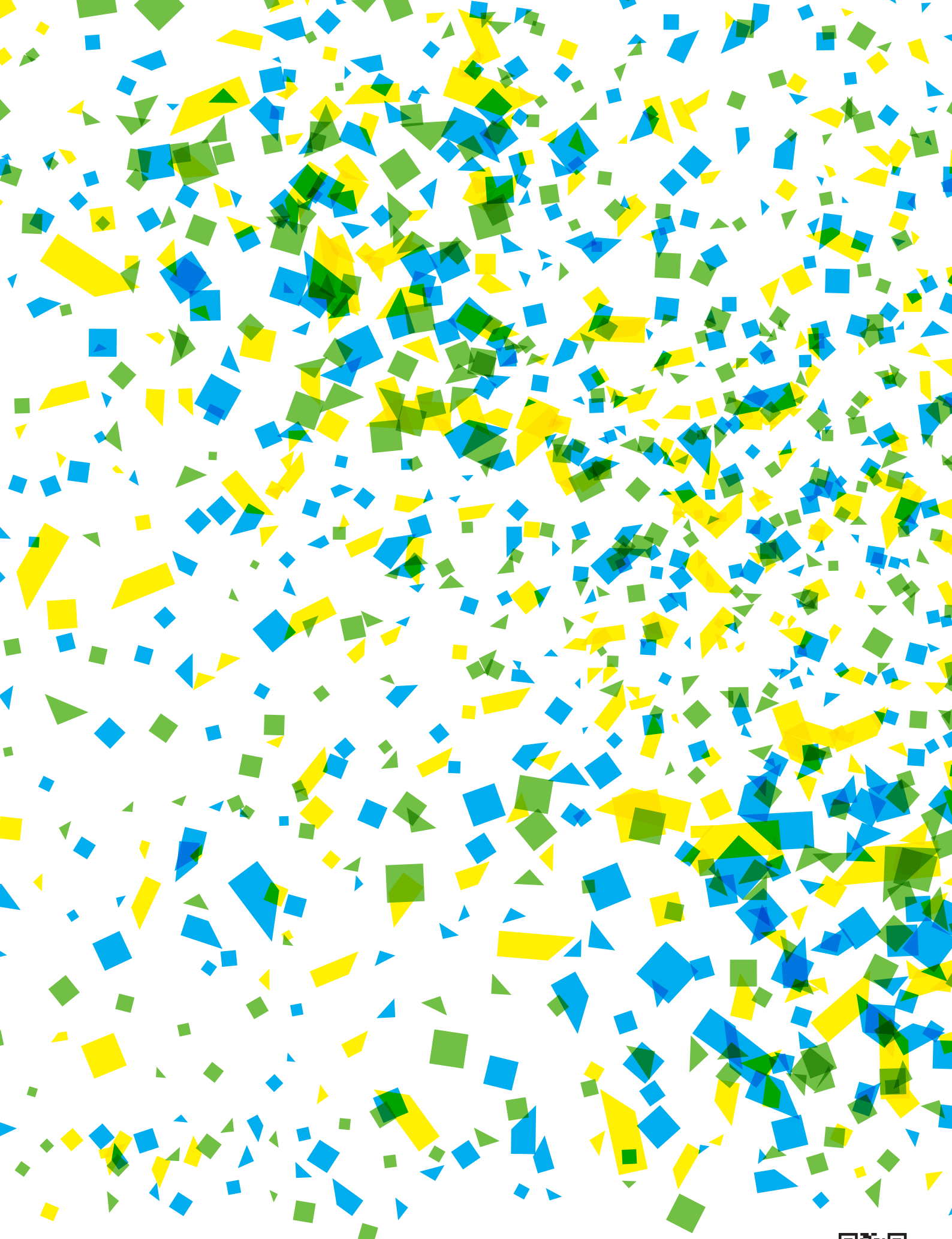
イエローは未来／希望に満ちあふれる光、グリーンは自然豊かな森林、山、植物、ブルーは澄み渡る青空、水資源を表現。群馬が誇る資産を色で表現しました。



みなさんの2040年のビジョンは？ MY VISIONを描こう

新・群馬県総合計画「G VISION 2040」は2040年の群馬県の目指す姿を描いたものです。G VISIONと合わせて、自身の2040年のビジョンを考えてみてはいかがでしょうか。この記入シートを活用して、ぜひ、ご家族や周りの方と一緒に話してみてください。

MY VISION 2040		わたし	家族・友人等
2040年に目指す姿			
ロードマップ	2035年 (歳)		
	2030年 (歳)		
	2025年 (歳)		
今できること			



発行：群馬県知事戦略部戦略企画課
令和3年10月

新・群馬県総合計画 ポータルサイト www.gunma-v.jp

